

この墓地の一番奥には、毛利氏一族の奇数代（3、5、7、9、11代）藩主とその妻を祀った5組の大きな墓がある。各対の墓の前には大きな鳥居だけでなく、その藩主と夫人の業績を記した石柱が立っている。これらの柱の上部に向かって、藩主は（一行、三点の紋）、夫人は（植物の紋）が刻まれている。柱は石の亀の上に立てられていて、亀はそれぞれ独特の表情をしている。

これらの墓の周囲には何百もの石燈籠があり、それぞれが毛利家の家臣たちが藩主死後もその献身を示すものであった。灯籠の穴は紙でふさがれ、祖先の霊を弔うお盆 8月15日に点灯される。